

〈美術部会〉

I 研究主題

「個に応じた指導と多角的な評価の在り方」 ～短時間題材の活用を通して～

II 研究の概要

平成14年度は、指導と評価の一体化を図ることを目指し、美術で育てる基礎・基本の明確化と、その育成を図るための評価の在り方や指導・評価計画について研究した。

そこで、本年度はその成果を踏まえ、美術における基礎・基本を再確認し、その確実な定着を図るための、過程を重視した多角的な評価の在り方と指導と評価の一体化、そして多様な題材体験の必要性から、短時間題材の活用の重要性に着目し研究開発を行った。

III 研究の内容

1 美術で育てる基礎・基本とは

小・中学校の図画工作・美術の授業を受け、やがて成人した人たちから、「描いたりつくったりすることは、とても面白い…」という言葉よりも、「美術は苦手だ…」、「絵は描けない…」、「美術作品は観ても分からない…」などの声が多く聞かれる。

美術教育は、得意か苦手か、分かるか分からないかなどと、自己認識させるための教育ではない。また、作品の評価により上手いか下手か等の尺度で、生徒の技能等を序列化するためのものでもない。

現行の学習指導要領の改善の基本方針には、「児童生徒が生活を明るく豊かにし生涯にわたって楽しく描いたりつくったりする創造活動を促すことを重視し、表現や鑑賞の喜びを味わうとともに、豊かな表現活動や鑑賞活動をしていくための基礎となる資質や能力を一層育てられるようにする。」とある。

美術の授業においてともすると、素晴らしい作品をつくることを目標にした指導によって、完成作品の出来栄を評価することを中心とした、いわゆる作品主義的な傾向が見られたが、美術の指導の目的は、表現や鑑賞の喜びを味わう活動を通して、学習指導要領に示されている基礎・基本（＝美術ではぐくむべき資質や能力）を、すべての生徒に確実に育成する点にある。

学習指導要領 《表現及び鑑賞の指導上の配慮事項》

- ・ 各学年の「A表現」の指導に当たっては、生徒の学習経験や能力、発達特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択し創意工夫して表現できるようにすること
- ・ 主題の発想から表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること

人間の自己実現の欲求は、他者からの力による対応的な行動としてではなく、自分の内にあるものを外に押し出していく主体的で表現的な行動として表れ、自分らしく表現する喜びは、自分のよさや可能性を発揮し、自己実現の喜びを実感すると言われている。上記の学習指導要領の《配慮事項》に示されているように、生徒の学びのプロセスや自己実現の喜びを大切に、「個性を生かす教育」としての指導の在り方が重要なのである。

それが、特定の技術を徹底して身に付けたり、高度な表現方法を習得するような指導であったり、題材の設定において偏りがあつたりしては、本来の目的からかけ離れたものになってしまう。

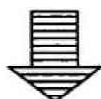
まさに新しい学力観で示されているように、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等を重視し、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を図ることが重要なのである。

そこでまず、すべての生徒にはぐくまなければならない美術の基礎・基本について、学習指導要領に示された美術の教科目標と内容、及び美術の評価における観点の趣旨をもとに、再確認したい。

《教科目標》 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

《各学年の目標》

- 【1学年】
- 楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を培う。
 - 対象を深く観察する力や、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身に付け、創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
 - 自然や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げる。



- 【2・3学年】
- 主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深める。
 - 独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。
 - 自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深める。

《評価の観点及びその趣旨》

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。	表現の技能を身につけ、造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。	美術作品や文化遺産などに親しみ、完成や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じ取り味わったり、理解したりする。



(1) 表現にかかわる基礎・基本

- ア 自分らしく主体的に造形表現活動する喜びの実感 《 美術への関心・意欲・態度 》
- イ 表現したい自分の意図や思いにしたがって、豊かに発想し構想を練る能力 《 発想や構想の能力 》
- ウ 自らの意図や思いを効果的に表現するために、自分らしい表現方法（材料や技法）で表現するための基礎的技能 《 創造的な技能 》

(2) 鑑賞にかかわる基礎・基本

- ア 主体的に鑑賞活動する楽しさの実感 《 美術への関心・意欲・態度 》
- イ 美術作品などに接し、自由に感じ考えたり自分の見方や感じ方を深めたりする能力 《 鑑賞の能力 》

(3) 豊かな感性・豊かな情操

これらの資質や能力が身に付いていく中ではぐくまれる、価値あるものに気付く感覚や、深く感じ取れるような感性、そして美しいものや崇高なものに感動する豊かな心

《 美術における基礎・基本 》

造形表現活動や鑑賞活動の喜びや楽しさを実感し、それが生活の中で美しさやよさを求める心や行為となって表れ、生涯にわたって自分らしく表現活動したり鑑賞活動したりすることを通して、心豊かな生活や人生をつくりあげていくための資質や能力

2 短時間題材の活用について

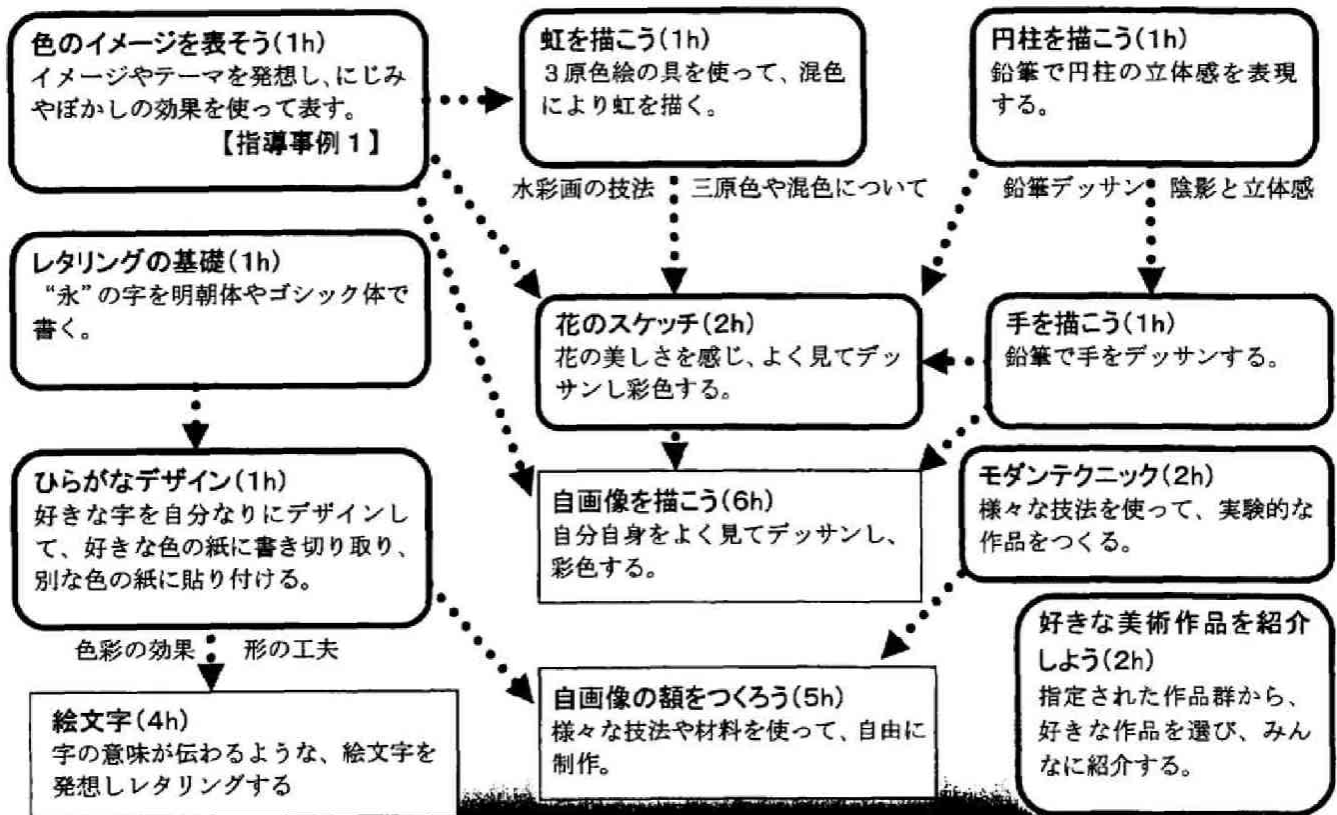
(1) 短時間題材の必要性

先に述べたように、美術における基礎・基本とは、特定の技術を徹底して身に付けたり、高度な表現方法を習得することではない。

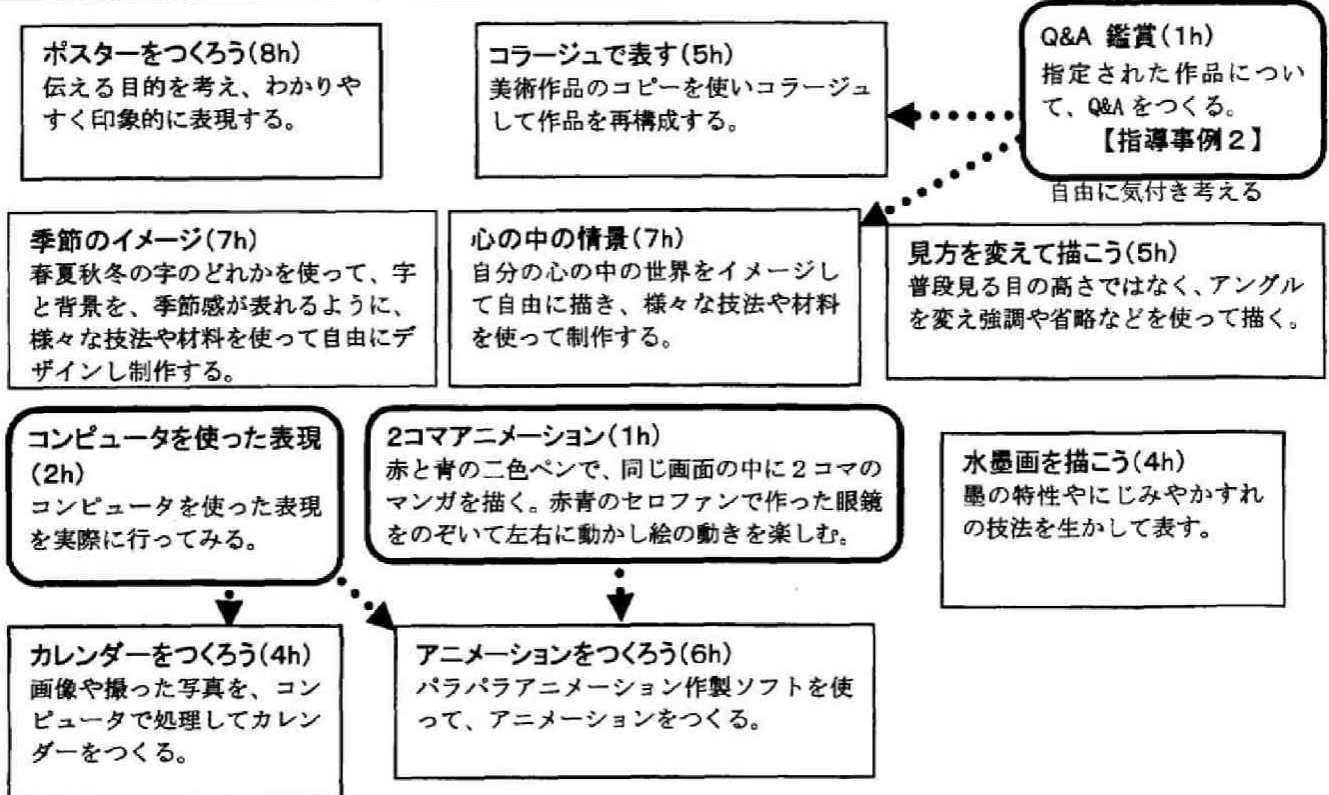
「作品づくり」中心の美術ではなく、「資質・能力を育成する視点をより明確にした美術」の在り方から考えたとき、3年間の限られた美術の授業の総時数（115 時間）の中で、多様な題材体験の必要性や、生徒の資質や能力の確実な育成を図るための、多角的な評価と、その評価に基づいた個に応じた指導の工夫の重要性から、短時間題材の活用は極めて有効と考え、具体的な授業実践を通し研究開発を行った。

3 3年間を見通し短時間題材を生かした継続的・発展的な題材の配列例

第1学年

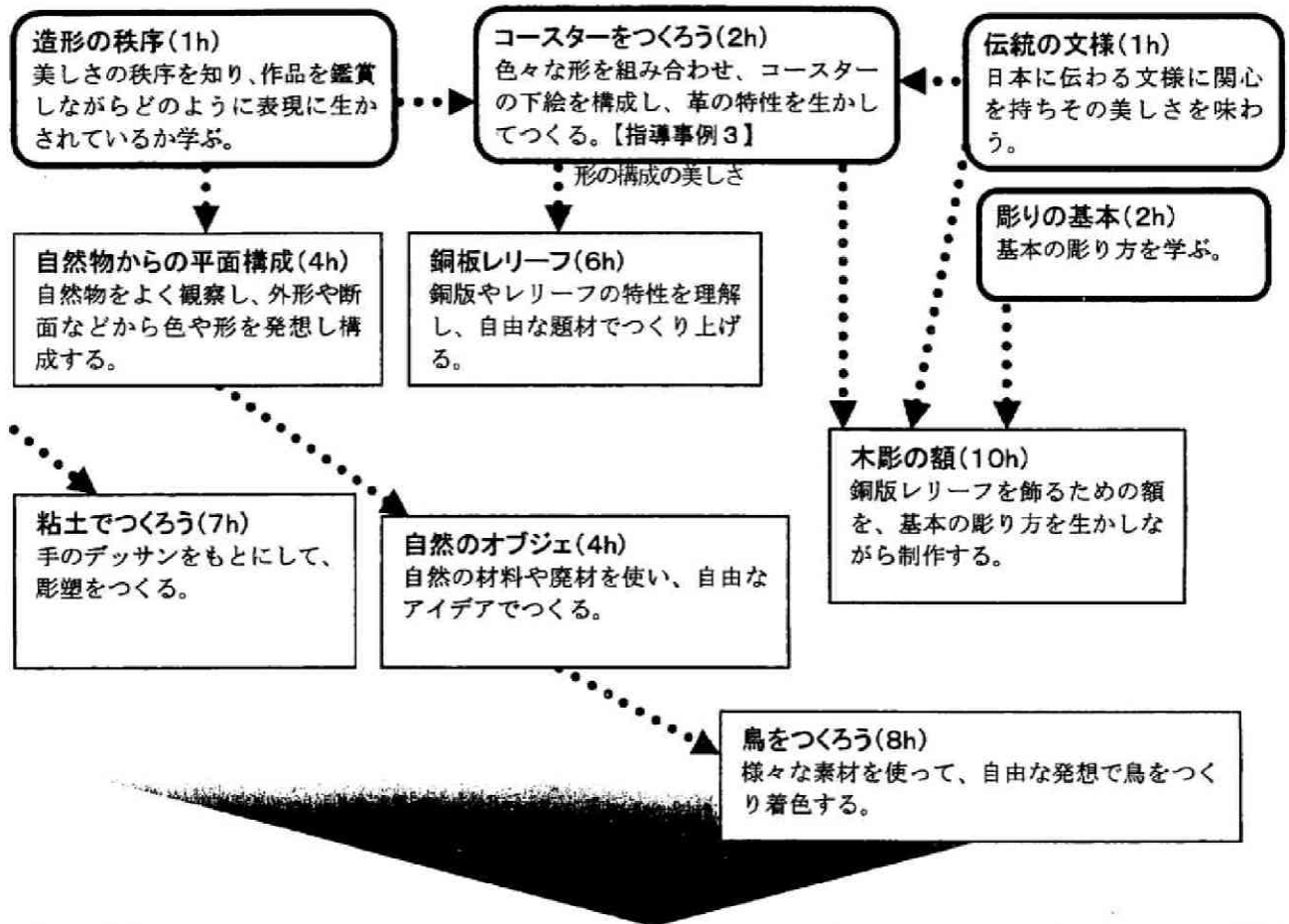


第2・3学年

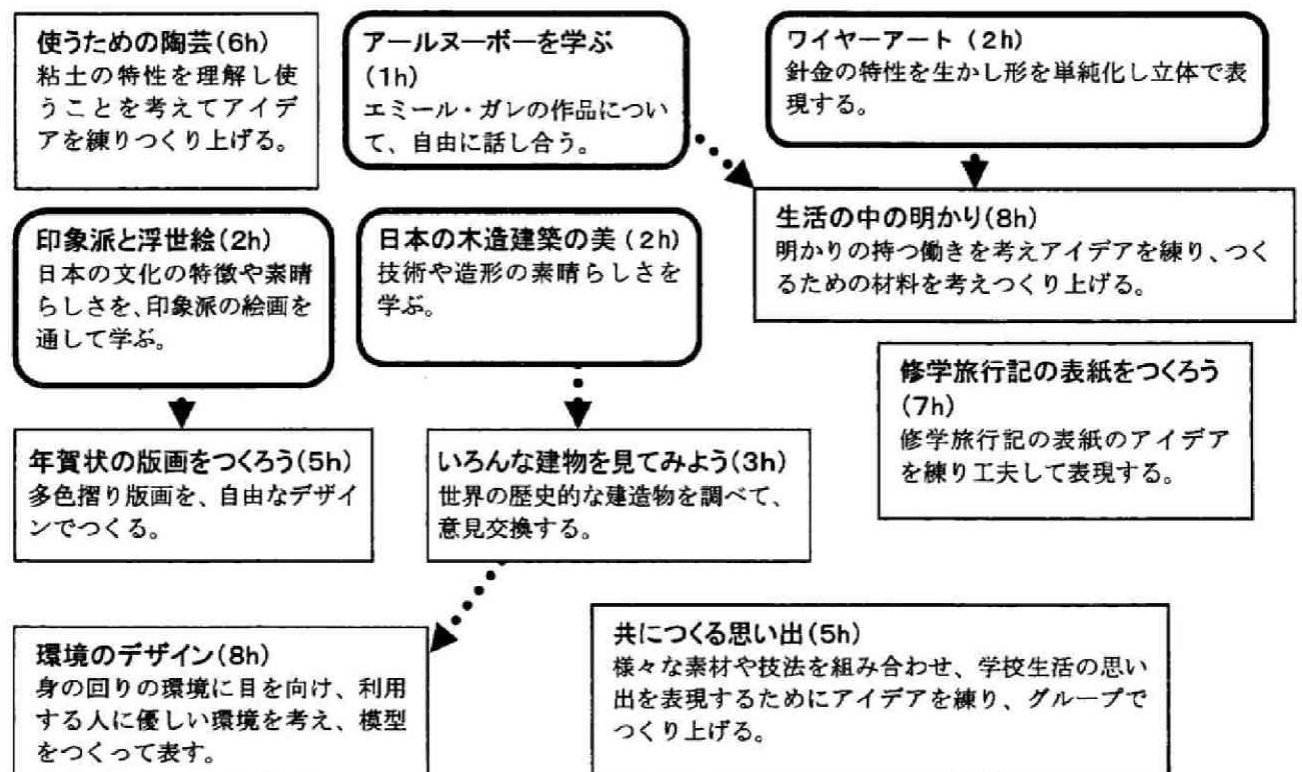


(配列例を示したもので時間数との関連は考慮していない。第2・3学年の題材は第1学年の題材を踏まえて設定)

第1学年



第2・3学年



IV 指導事例 1 「1学年/短時間題材で学ぶ表現の基礎・基本 (発想する力、色の感覚)」

1 題材名 「色でイメージを表そう。-にじみやたらしこみの技法を使って-」全1時間

2 題材の目標

グループで協力し学習成果を確かめ合いながら、にじみやたらしこみの技法を使った色彩の美しさを生かして、一人ひとりの自由な発想を生かして楽しく表現活動を行う。

Point

本題材の特色は、以下の2点である。

①水彩画の技法に苦手意識を持たずに、色彩の美しさを味わいながら楽しく制作できること。

②効果が予測しきれない偶然性の面白さから、生徒が興味や関心をもちやすいこと。

この題材は、水彩画のみならず、平面構成における配色の工夫や構想画などの作品への展開が可能である。

3 題材の評価規準

ア 美術への関心意欲態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
にじみやたらしこみの表現に面白さを感じ、意欲的に活動に取り組もうとする。	自分らしいイメージやテーマを発想し、意図に応じた色や形の組み合わせを構想する。	にじみやたらしこみの技法を活用し制作する。	色の美しさを生かした様々なイメージの表現の良さや美しさを感じ取る。

4 指導の流れと評価の計画

	評価規準	(C)と判断される状況	(C)と判断した生徒への手立て	(A)と判断する視点
導入	ア 授業観察	準備を行おうとしない。ア	「グループで協力すると作業が早く進むね。一緒に分担しよう。」	ア 率先して、準備しようとする。 進んで作業の準備をグループに指示し仕事内容を割りふる。
展開	アイ 授業観察 作品	作業に取りかかれずにいる。ア	「友達と同じやり方で一緒にやってみよう。」 「最初は実験のつもりでやってみよう。」	ア 積極的にグループで協力して作業を進め、成果を伝え合い学び合っている。
	アイウ 授業観察 作品	テーマやイメージが思いつかず、書けずにいる。イ 水が少なすぎて、たらしこみの技法が生かせない。ウ	「どんなイメージにしたいのかな。」 「自分の好きなものや言葉を考えてみよう。」 「同じグループの人の題名はなんて書いてあるのかな。参考にしてみよう。」 「一緒にやってみよう。」	イ 自分らしい発想を生かしてイメージが描ける。効果的な色が選べる。技法を応用した効果が想像できる。 ウ 技法や用具を工夫して意図した色合いをつくること出来る。
まとめ	アイ 授業観察 ワークシート	作品に興味を示さない。エ	「この作品のどのような所が良くできているのかな。」 「この作品は色がびったりだね。他にも色がいい作品はあるかな。」 「この作品は形が工夫されているね。他にもいい作品はあるかな。」	エ 自分で作品を選び、作品の良さや美しさについて、自分らしく答えられる。

指導事例 2 「2 学年 / 短時間題材で学ぶ鑑賞の基礎・基本 (鑑賞の能力、美術作品を主体的に見つめる)」

- 1 題材名 「 Q & A 作成と意見発表から始める、主体的な鑑賞活動。 」 全1時間
 2 題材の目標

生徒が自分らしい感じ方見方で作品に接し、質問と答え (Q & A) を作成することで、自由に気付き考えることを重視した主体的な鑑賞活動を行い、さらに友達の問題や答えを聞くことで、自らの感じ方見方を深めたりすることを楽しむ。

Point

本題材の特色は、以下の2点である。

- ①知識を与えられ理解するのではなく、生徒が自由に気付き考えることを重視した鑑賞活動である。
 ②友達の質問や答えを知り意見交換することで、自己の感じ方見方を深めることができる。

本題材は、様々な鑑賞活動の基本となる活動であり、作品理解の能力がはぐくまれることは、表現分野でも役立つと考える。

3 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
美術作品に関心を持ち、他者の意見を聞くを通して、作品に対する理解や見方を深めたり広げたりすることを楽しむ。	作品を注意深く見つめ、自分らしく感じ気付き考え、友達の意見を聞くを通して、作品に対する理解を深め、見方を広げる。

4 指導の流れと評価の計画

	指導の流れ	具体的な評価基準 (関) (鑑)	(C)と判断した生徒への手立て	(A)と判断する視点
導入	授業の方法を理解させる。 ◇美術作品を見て質問 (Q) に答える。 ◇質問は生徒が作り、先生から全員にする。 ◇どんな質問、答え (A) でもよい。 ◇質問の数は多い方がよい。 ◇自分の質問には答えを、できるだけ書く。 ↓ プロジェクターとプリントで作品提示する。 ジョルジョ・デ・キリコ「街の神秘と憂鬱」 ↓ 「Q」作成用紙配布する	㊦ 作品を注意深く見つめる。	授業のやり方がわからない生徒は、繰り返し説明する。 先入観から抵抗のある生徒には、知識理解を求めるのではないので、自分の感じたままに書けばよいことを説明する。 作品を拒否する場合は、なぜ、どこが気に入らないのかを、一緒に考えてみるように促す。	
展開	「Q」の作成を指示する。用紙の欄は5つ。各「Q」には [A] の欄もついている。(15分程度) ↓ 「Q」用紙回収して、「A」用紙を配布する。「A」用紙は欄が5つ。さらに感想欄と自己評価欄がある。 ↓ 例：質問1 「ここは (絵の場所) どこですか？」 絵をよく見て各自「A」用紙に記入させる。回答を発表させる。 ↓ 二次的質問をする。 「なぜ、どこを見てそう思ったのか」「友達の意見についてどう思うか」 ↓ 質問2以下も二次的質問をし、回答させる。知識、情報が必要ななら教師から説明する。	㊦ 自分らしく自由に気付き考えて、質問を作成する。 ㊦ 作品と鑑賞活動に関心を持ち、意欲的に取り組む。 ㊦ 友達の気付いたことや考えたこと聞き、自分の感じ方見方を深めようとする。	「Q」がつかれない生徒には、第一印象で感じたこと気付いたことや、不思議に思ったことを聞き、それを「Q」にできるように助言する。 自信がないために記入できない生徒も安心して記入できるような雰囲気づくりに努める。 うまく意見交換ができない生徒には、まず聞くことを促し、後から意見を発表させる。また、話し合いに挙手することで参加させる。(同じように感じた人は…、違ったように感じた人は…)	㊦ よく作品を見て「Q」を多く作成できる。「Q」の視点、内容がよい。 ㊦ 率先して鑑賞授業をリードしている。 ㊦ 発表した「A」の内容がよい。二次的質問に的確に回答できる。
まとめ	すべての生徒の発言を認めながら、質問1～5までの意見を集約する。出題できなかった質問について考えることを促す。 ↓ 感想と自己評価を記入させる。 ↓ 用紙を回収する。	㊦ 鑑賞活動に面白さを感じる。 ㊦ 自分の感じ方見方を深めようとする。	鑑賞活動に否定的、拒否的な生徒がいた場合は、個別に話を聞き指導する。	㊦ 鑑賞活動に関心と意欲をもち、とても喜びを感じている。 ㊦ 感想から鑑賞力が深まったことが読みとれる。

(2) 短時間題材のとらえ方

- ア 一つの独立したユニットであり、1・2時間程度で完結した題材である。
- イ 基礎的な技能を確実に身に付けるため、または振り返りやまとめ学習として行う。

(3) 短時間題材の長所と短所

<長 所>

- ア 苦手な題材でも意欲的に取り組みやすく、一時間一時間が充実し、集中して取り組むことができる。
- イ 基礎的な能力の定着を図るための題材として設定し、その上で発展的な題材へと展開できる。
- ウ 限られた年間総時数の中で、様々な題材体験が可能となる。

<短 所>

- ア 作品を長い時間をかけてつくり上げた充実感を味わえない。
- イ 短時間題材を相互の関連のない独立した授業としてだけで設定すると、診断的な評価のためだけの、課題テスト的なものになってしまう。

(4) 短時間題材の効果的な活用方法

長く時間を確保した題材は、生徒が表現形式や表現方法を選択したり、様々な試行錯誤やじっくり粘り強く制作することを通して、生徒に作品を仕上げた時の成就感や充実感を実感させることができる。

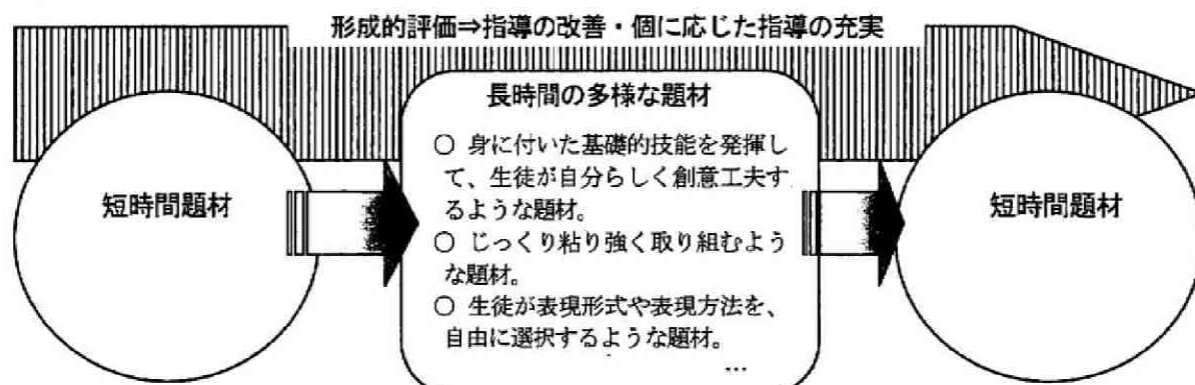
しかし、表現形式や方法を限定するような一定の題材をあまりに長く設定してしまえば、学習内容に片寄りが出てしまったり、生徒によっては美術全体に対する苦手意識を持ってしまったり、また、限られた表現方法のみの評価では一面的な評価となってしまう、本来の評価の観点の趣旨から外れたものともなってしまうかねない。

そこで、長時間の題材と短時間題材を密接に関連付け、効果的に組み合わせることにより、長時間の題材の短所を補うことができる。短時間題材は基礎的な内容の定着などとして行い、長時間題材に発展的につなげていくように計画し、また、最後のまとめ学習として活用することも考えられる。

(5) 短時間題材を活用した指導と評価の一体化

短時間題材においては、評価の観点を焦点化し、短い限られた時間の中で、生徒のいかなる資質や能力を発揮させ育成させるかという明確な意図と計画を持って取り組み、授業中の個々の生徒の様々な状況を敏感にとらえ、個に応じた指導の充実を図る。これらのことは、短時間の題材であるが故に、ただ生徒に作業させるのみで、教師は前でただ全体を見渡したりしているだけといった課題テスト的なものになってしまう恐れがあるため、あえて意識して取り組まなければならない。

授業後にも、休み時間や放課後等を使い、出来上がった作品とともに授業での様々な生徒の様子について、記憶があいまいにならないうちに、記録としてとどめておくことが重要である。このような記録の蓄積によって、継続的な個に応じた指導の充実に役立てることができる。



短時間題材は独立したユニットとして設定されるが、その他の題材との関連において、的確に位置づけられたとき、その有効性を発揮する。

次に、短時間題材を生かした題材の配列例を具体的に示し、長時間の題材とのかかわりの中での短時間題材の効果的な配列を考える。

指導事例3 「1学年/短時間題材で学ぶデザイン、工芸の基礎・基本(発想・構想する力)」

1 題材名 「コースターを作ろう。-皮革レリーフの技法を使って-」全2時間

2 題材の目標

抽象形(正方形、長方形、三角形、円、線など)を組み合わせて、「形の分割、配置、繰り返し、大小によるリズム感・バランス感」「点や線」などの構成の基礎を学び、美しく、使いやすいコースターをデザインする。

Point

本題材の特色は、以下の2点である。

- ①様々な形や大きさのパーツをあらかじめ用意しておくことで、実際に並べたり、組み合わせたり試行錯誤を繰り返しながら、構成の効果を学び構想を練ることができる。
- ②下地の上に皮革を貼るので、下地制作の技術的な差にあまり関係なく、美しく仕上がるため、完成時の生徒の満足感が高い。本題材はデザインにおける平面構成や、彫刻の浮き彫り(半立体)などの題材との関連で、基礎的な内容と位置づけられる。

3 題材の評価規準

ア 美術への関心意欲態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
デザインや工芸のよさや美しさに関心をもち、自分らしくよりよい表現を目指して試行錯誤しつつ創意工夫することを楽しむ。	感性や創造力を働かせて、形の組み合わせや並べ方を、自分らしく豊かに発想し、構想を練る。	自分の表現意図に応じて、形や材料、用具についての基礎的知識や技能を活用し制作をする。	デザインや工芸について見方を広げ、その働きについて理解し、その多様な表現のよさや美しさを感じ取り味わう。

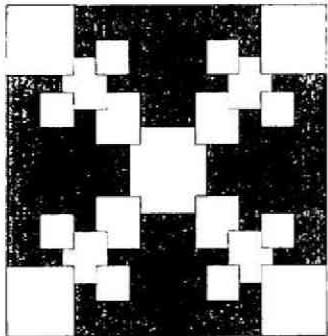
4 指導の流れと評価の計画

	主な学習活動	具体的な評価基準	(C)と判断した生徒への手立て	(A)と判断する視点
鑑賞	<p>題材を提示する。 (コースターについての説明を含む)</p> <p>↓</p> <p>参考作品を提示する。</p>	<p>ア①デザインや工芸に関心をもち、よさや美しさなどを感じ取ろうとする。</p> <p>エ①参考作品や互いの作品について、その多様な表現のよさや美しさを感じ取り味わう。</p> <p>観察</p>	<p>題材への興味を喚起するために、わかりやすく個別に指導する。</p>	<p>ア 題材に強く関心をもち、積極的によさや美しさを感じ取ろうとしている。</p>
表現	<p>○ワークシート1(表現)構成の基礎を学習する。「形の分割、配置、繰り返し、大小によるリズム感・バランス感」「点や線の配置」など。</p> <p>↓</p> <p>さまざまな大きさで作られた白色の厚紙の抽象形(正方形や長方形、三角形、円形、線など)のパーツを並べたり、組み合わせたり、試行錯誤・創意工夫しながらアイデアを練る。</p> <p>コースターとしての用途や機能性を考慮する。</p> <p>↓</p> <p>アイデアスケッチを完成させる。…アイデアの決定</p> <p>↓</p> <p>アイデアスケッチ等にしたがって、下地を制作する。…下地の完成</p> <p>↓</p> <p>羊皮を下地に貼り付ける。皮革の特性を知る。皮の素材とふれあい、よさを発見し、素材感を味わう。</p> <p>↓</p>	<p>ア②自ら進んで発想・構想の能力や表現の基礎的知識や技能を身に付けようとする。</p> <p>観察・ワークシート</p> <p>ア③自分らしくよりよい表現を目指して試行錯誤しつつ創意工夫することを楽しむ。</p> <p>イ①自分の表現意図に応じて、自分らしく豊かに発想する。</p> <p>イ②構成の基礎的知識や技能を理解し、それらを活用して構想をする。</p> <p>イ③用途や機能と美しさの関係を考えて発想する。</p> <p>観察・ワークシート・作品</p> <p>ア③</p> <p>ウ①皮革などの材料や用具、つくり方についての基礎的知識や技能を理解し、身に付けている。</p> <p>観察・作品</p>	<p>実際にパーツを使い、構成の要素を示しながら再度説明する。</p> <p>アイデアが思い浮かばない場合は、興味・関心を示す作品や構成の要素の模倣、資料を活用するなど具体的な方法を助言し、少しずつ主題を固めさせる。</p> <p>コースターの用途や機能性が理解できていない生徒へは、参考作品を例に実際にカップを置き、確認させる。</p> <p>羊皮がうまく貼れない場合は、皮革の特性を再度確認させ、丁寧に、あせらずゆっくりと貼れるよう個別に指導助言にあたる。</p>	<p>ア 真剣なまなざしで作業し試行錯誤・創意工夫しながらいくつも案をつくる。</p> <p>イ 構想を何度も繰り返し直し、向上している。独創的で美しいデザインを考えている。用途や機能性を十分に理解し、美との調和を考えたデザインをしている。</p> <p>ウ 計画的に丁寧な作業ができる。皮革の特性を十分に理解し、美しく丁寧に貼ることができる。</p>

	主な学習活動	具体的な評価基準	(C)と判断した生徒への手立て	(A)と判断する視点
表現	仕上げをする。 磨き及び塗装 …作品の完成。		磨き方が難な場合は、一緒に作業しながらその効果を示し、個別に指導する。	ウ 仕上がり具合にこだわりを持ち、丁寧に磨いている。
鑑賞	○ワークシート2 (鑑賞) 互いの作品を見合い、その多様な表現のよさや美しさを感じ取る。 ↓ 実際に使用しながら、機能と美の関係、皮革の特性や素材感を生かした表現について、そのよさや美しさについて考える。 …ワークシート2の記入	ア① エ① エ②美と機能性とのかわりに気付き、生活におけるデザインや工芸の働きについて理解する。 <u>観察・ワークシート</u>	鑑賞に思うように取り組めない生徒へは、①面白い形の組み合わせや美しい構成ができている作品の例を示す。②友達の表現の良さや工夫点を一つひとつ見いだせるよう箇条書きさせながら確認させる。③その作品のよい点を示し、工夫した点、苦勞した点について、制作過程を追いながら確認し、箇条書きさせる。	エ 友達の作品のよさや美しさを様々な視点から的確に感じ取っている。 美と機能性の調和に気付き、十分に理解できており、今後の制作に生かすことができる。
		[ワークシート2の内容] ・友達の作品について…気に入った作品、よさや美しさなど発見したこと、考えたことなど。 ・自分の作品について…実際に使用して、発見したこと、考えたこと、今後の制作に生かしたいことなど。		

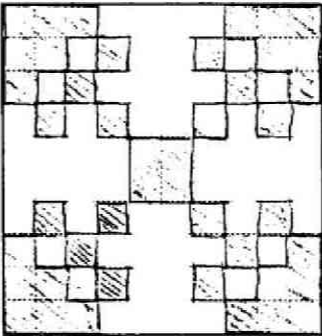
5 ワークシート1

ワークシート1 第一学年 (デザイン・工芸)
「コースターを作ろう」デザインを考える。
★アイデア① 白い厚紙で作られたいろいろなパーツを実際に配置しながらデザインを考えよう。



【メモ欄】 10cm x 10cm

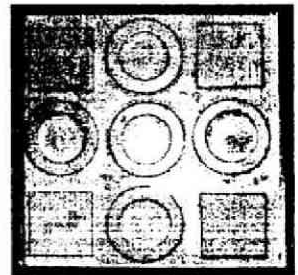
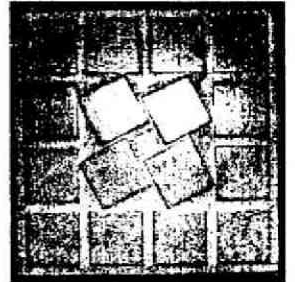
★アイデア② スケッチしながらデザインを考えよう。または、アイデア①で考えたデザインを描き留めておこう。



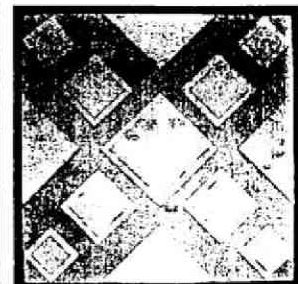
10cm x 10cm

1年 組 番 氏名 _____

6 作品例



『完成作品』



『下地の完成例』

7 評価補助簿 (個人カルテによる評価補助簿の例)

1年〇組 〇番 氏名 〇〇 〇〇					
題材名 「コースターを作ろう。-皮革レリーフの技法を使って-」全2時間					
	内容	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
〇月〇日〇校時	題材の提示 ワークシート1 (表現) ・構想 ・下地作り	A (B) C	A (B) C 構想をまとめられない。構成の要素の中から一つを選ばせ、パーツを置かせてみる。試行錯誤を始めた。	A B (C) 貼りが難。板との間に隙間あり。次回最初にアドバイス。	A (B) C
〇月〇日〇校時	皮の貼り付け 仕上げ ワークシート2 (鑑賞)	A (B) C	A B C	A (B) C 作業前に「焦らず丁寧に」とアドバイス。隙間なくうまく貼れた。皮も同様にうまく貼れた。	(A) B C メモをとりながら熱心に作品を鑑賞している。友達の作品のよさがよく感じ取れている。(ワークシート)
〇月〇日		A B C	A B C	A B C	A B C

V 三年間の研究のまとめ

今年度美術部会では、これまでの2年間の研究の成果をふまえ、「個に応じた指導の工夫と多角的な評価の在り方」とのテーマを掲げ、効果的で多様な題材の設定と、多角的な評価による個に応じた指導の充実を図るには、短時間題材の活用が重要であると考え研究開発を行った。

以下に、本年度まで3年間の研究の成果をまとめる。

◎ 美術における基礎・基本について

全ての生徒が身に付けなければならない美術における基礎・基本とは何なのかと考えたとき、ともすると、題材の設定において偏りがあったり、特定の技術を徹底して身に付けたり、高度な表現方法を習得するようなものになってしまっていたり等の問題点が見受けられる。

生涯にわたって自分らしく表現活動したり鑑賞活動したりすることを通して、心豊かな生活や人生をつくりあげていくための資質や能力こそが、美術における基礎・基本である。

美術の授業の目的は、生徒の表現活動における完成作品の出来栄えや、美術作品や美術史についての知識をどれだけ教え込めるかではなく、表現活動と鑑賞活動を通して、すべての生徒の、美術における資質や能力を生き生きと発揮させ、育成することにある。ただ「作品づくり」のための美術の授業ではなく、「資質・能力を育成する視点をより明確にした美術」の在り方が重要なのである。

◎ 評価について

目標準拠評価（いわゆる絶対評価）は、他者との比較などの要素や、教員の「恣意的」な判断に左右されてはならないものである。

また、資質や能力を確実に育成するための評価の在り方を考えたとき、作品のみによる評価ではなく、過程を重視した評価の充実により、授業中の活動の様々な場面で、生徒の状況を細やかに見取りながら、的確な指導の手立てを講じていくことが極めて重要である。

そこで、美術の評価における、妥当性の向上と信頼性の確立のための重要な視点は、以下の4点と考える。

- ① 教員自身の美術教育者としての専門性の不断の向上のため、学校の枠を超えた、複数の教員による評価情報の交換や、評価に関する研修の実施
- ② 一面的な評価や完成作品のみによる評価ではなく、多様な評価方法と評価場面による多角的な評価の実施
- ③ 生徒が自由に記述するようなワークシートや、自己評価シートの活用
- ④ 評価の根拠となる評価情報の記録と蓄積

◎ 美術における「分かる授業」

美術における「確かな学力」を育むための、「分かる授業」をつくりあげていくことが重要である。

表現活動における自己実現の喜びは、決して外からの強制力に対する対応的な行動としてではなく、主体的で自分らしい表現行動の中で、自分自身の良さや可能性を発揮しながら、実感されるものである。美術における「分かる授業」とは、すなわち、表現活動・鑑賞活動の喜びや楽しさ、美術における資質や能力の高まりや深まりを、生徒自らが実感しながら取り組むことのできる授業のことであり、このような魅力ある授業づくりを、指導内容・指導方法の様々な工夫や、外部の人材や施設の活用等によって、いかに行っていくかが重要な課題である。